

授業科目名	介護福祉の基礎理論				履修期	2019年度 秋学期	
担当者	松原 浩一郎					NO.	HS-SW-2-501
配当学科	社会福祉				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>介護福祉の分野に必要な知識と技術及び倫理を理解することを目標にする。より具体的には以下の通りである。</p> <p>①多様なサービスの理解～介護保険制度の理解を深める ②在宅介護や施設介護において必要な知識や技術や倫理について理解を深める。 ③介護に必要なコミュニケーション技法について理解を深めて、実際にロールプレイを行い、その技術を活用出来るようになる。特に共感や傾聴、受容的態度について身につける。また、チームで実践することの意義とその実態を理解する。 ④障害についての理解を深めて、障害者本人およびそれを取り巻く家族や地域のついで学ぶ。 ⑤施設見学を通して、施設の実態を理解して、利用者の実態を体験的に学ぶ。</p> <p>以上のような学修を通して、高齢者や障害者の実態を説明出来るようになり、くわえてそれらの当事者を取り巻く家族や地域及び施設の実態を述べることで、それらの課題を明確に説明出来るようになることを到達目標にする。</p>						
概要	<p>高齢者や障害者の理解については、主にテキストをもちいて、講義形式で学びを深める。コミュにケーション能力の習得については、講義形式で学んだ後、ロールプレイを通して、実施に実践して体験的に学びを深める。さらに、福祉施設の現状を理解するため、実際に見学に行き、職員から直接指導を受けると共に、そこで働く職員と利用者を観察して、その実態を理解する。なお、見学後はそこで学んだ内容をレポートにまとめることになる。</p>						
評価方法	最終講義における筆記試験で80%の評価を行う。それ以外は、施設見学後のレポートで20%の評価をする。						
履修条件・注意事項	欠席については特に厳しく管理するので、体調を整えて欠席をしないようにすること。最後には施設見学を行うので、服装や髪型等、社会的マナーを守ること。なお、施設見学前にフィードバックを行い、それまでの学修の習熟度を確認する。						
自己学習	授業毎に、テキストに基づいて講義範囲を指示するので、必ず事前に精読しておくこと。くわえて、講義後もノートなどを通して復習をして、疑問に思う箇所等は次回の講義において質問をすること。予習と復習に90分以上の時間を費やすこと。						
オフィスワ-	木曜日3講目6号館3階6307研究室						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			1,オリエンテーション 2,多様なサービス理解1 3,多様なサービス理解2 4,介護職の仕事内容や働く現場の理解1 5,介護職の仕事内容や働く現場の理解2 6,介護におけるコミュニケーションについて 7,介護におけるコミュにケーションの演習(ロールプレイ) 8,介護におけるチームのコミュニケーションについて 9,介護におけるチームコミュニケーションの演習(ロールプレイ) 10,障害の基礎的理解 11,障害者家族の心理 12,障害者に対する関わり支援の理解 13,就業への備えと継続 14,施設見学の準備(グループ学修) 15,高齢者施設見学(施設の理解) 16,単位認定試験	講義 講義 講義 講義 AL 講義 AL 講義 AL 講義 講義 講義 AL AL AL 筆記試験	松原 松原 松原 松原 松原 松原 松原 松原 松原 松原 松原 松原 松原 松原 松原 松原 松原		
教科書1	介護職員初任者研修課程テキスト1, 2, 3 出版社: 日本医療企画						
教科書2							
参考書1							
参考書2							

授業科目名	介護の理解			履修期	2019年度 秋学期		
担当者	橋本 彩子					NO.	HS-SW-2-502
配当学科	社会福祉			年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>テーマ:介護従事者として利用者尊厳の保持、人権尊重、自己決定権等の重要性を知り、それを実践するために不可欠な高齢者・障害者福祉制度サービスを学ぶ。</p> <p>到達目標: ①介護従事者として、高齢者・障害者の特性を知り、利用者の尊厳の保持、QOL(生活の質)の向上のためにできる支援を考えていく。 ②ICFの視点について理解し、ストレングス、エンパワメント、アドボカシー機能といった用語を説明できる。 ③多職種連携(チームケア)の重要性を鑑み、ケアマネジメントの実際を考察する。 ④我が国の福祉制度及び政策の体系と高齢者や障害者への直接的なサービスの概説ができる。</p>						
概要	<p>人間が避けては通れない高齢化・障害・疾病という課題を身近に感じ、自身の生活と結びつけて学んでほしい。</p> <p>①まずは、介護従事者として、利用者の尊厳の保持・自己決定の重要性、ICFの概念、ノーマライゼーションの理念を理解していく。さらに、我が国の高齢化の実態を把握し、介護予防施策を概説する。</p> <p>②また、高齢者・障害者が「自分らしい生活」を営むために不可欠な制度・サービスについて理解し、今後の課題を考察していく。</p> <p>③社会的問題となっている「虐待」の課題に触れ、介護従事者としての心構え、リスクマネジメントについて考察する。</p> <p>④多職種が連携して利用者をサポートするチームケアの重要性やケアマネジメントの実際についてビデオ視聴等を通して考察していく。</p> <p>※実務経験のある教員による授業科目 この科目は、介護施設での実務経験のある教員により、要介護者への介護の現状や課題、またそれらの課題を解決するために必要とされる知識や能力について講義し、学生の理解を深める。</p>						
評価方法	<p>この科目では、講義型で実施するが、介護の現状・課題を自ら考え、参加型学習を求めている。授業中の発言・参加態度を重視する。(授業態度90%) また、視聴教材の感想レポートをフィードバックし、定着していく。(レポート10%)</p>						
履修条件・注意事項	<p>①介護従事者としての資格取得に意欲的であること。 ②随時、資料を配布するのでファイリングしていくこと。授業では、資料にポイントを書き込み、自分なりにまとめていく参加型とするため、それに基づき復習、次回の予習(情報収集)をおこなっていく。</p>						
自己学習	<p>随時、講義の疑問点・感想をリフレクションシートにまとめ、全員で共有する。また、指示された次回の範囲を、テキストに目を通し、問題意識を持ち(予習)臨む。予習・復習にはそれぞれ2時間程度を要する。</p>						
オフィスワ-	<p>原則、授業終了後、教室においていただきますが、可能な限り対応させていただきます。</p>						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			1.人権と尊厳を支える介護①(利用者の実態) 2.人権と尊厳を支える介護②(尊厳の保持・ノーマライゼーションの理念) 3.人権と尊厳を支える介護③(成年後見制度と日常生活自立支援事業) 4.人権と尊厳を支える介護④(虐待の防止にむけて) 5.自立に向けた介護①(ICFの理念・ストレングス・エンパワメント) 6.自立に向けた介護②(介護予防施策) 7.自立に向けた介護③(制度の理解) 8.介護における安全の確保とリスクマネジメント 9.介護保険制度①(制度の仕組み) 10.介護保険制度②(サービスの種類) 11.医療との連携とリハビリテーション①(多職種連携) 12..医療との連携とリハビリテーション②(医療と福祉の在り方) 13.障害福祉制度およびその他制度①(障害者総合支援法の仕組み) 14..障害福祉制度およびその他制度②(サービスの種類) 15.今後の課題・まとめ			講義 講義	橋本 橋本
教科書 1	介護職員初任者研修課程テキスト(第1巻) 出版社:日本医療企画						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	介護概論 I			履修期	2019年度 秋学期		
担当者	藤原 幸子					NO.	HS-SW-2-503
配当学科	社会福祉			年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。介護技術の根拠となることとからだに関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。						
概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護職の役割、専門性と多職種との連携について理解する。 2. 介護の基本的な考え方を学ぶ。 3. こととからだのしくみを理解する。 						
評価方法	授業への積極的参加態度(10%)、知識の修得状況を確認するための課題レポート(10%)、知識の修得程度を確認するための試験(80%)によって評価する。						
履修条件・注意事項	必要に応じてプリントを配布するので、初回授業よりファイルを用意すること。						
自己学習	各授業計画に記載されている部分について事前に教科書を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。なお、2時間ずつ予習・復習を行うこと。						
オフィスアワー	6号館3階の個人研究室にて、毎週火曜日5限目をオフィスアワーの時間とする。不在時にはメモを残すこと。在室時間帯に面接が可能。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			<ol style="list-style-type: none"> 1.介護の基本的な考え方 2.ICFの視点に基づく生活支援 3.理論と法的根拠に基づく介護 4.感情と意欲 5.自己概念と生きがい 6.からだの状態がこころに与える影響 7.人体の各部の名称と動き、骨・関節・筋の名称と動き 8.ボディメカニクス 9.からだのしくみと生活支援技術 10.介護職の役割 11.介護の専門性 12.多職種との連携 13.介護職の職業倫理 14.介護職の倫理綱領 15.介護職の安全 16.試験 	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原		
教科書 1	「介護職員初任者研修課程テキスト」 著者:介護職員初任者研修テキスト編集委員会編 出版社:日本医療企画 ISBN: 978-4-907035-00-6						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	介護概論Ⅱ			履修期	2019年度 秋学期		
担当者	中角 祐治					NO.	HS-SW-2-504
配当学科	社会福祉			年次	2		
必修・選択	選択	単位数	1	時間数	15	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>介護の対象について理解できる。 老化に伴うところからの変化を説明できる。 高齢者に生じやすい疾病について、基本的な事項を理解できる。 障がいについて理解できる。</p>						
概要	<p>老化に伴う心と体の変化を学ぶ。 高齢者に多い疾病と生活上の留意点を学ぶ。 障がいの概念とICF(国際機能生活分類)を学ぶ。 障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支援等を学ぶ。 この科目は、医療機関で身体的機能の低下した要介護者への実務経験のある教員により、要介護者への介護方法 やや課題、またそれらの課題を解決するために必要とされる知識や能力について講義し、学生の理解を深める。</p>						
評価方法	<p>各授業で行う小テストで行います。 小テストの内容については、次回の授業で学生から発表してもらい、解説を加えます。</p>						
履修条件・注意事項	<p>人体の構造と機能について、復習しておいて下さい。</p>						
自己学習	<p>教科書を用いて予習を行い、理解しにくいことをまとめておくこと。これに2時間を要します。 復習として、授業で行った小テストについて教科書で確認すること。これにも2時間を要します。</p>						
オフィスワ-	<p>火曜2時限、6号館4階の6411研究室</p>						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			<p>1;加齢・老化に伴う心身の変化 2;高齢者に多い疾病1 3;高齢者に多い疾病2 4;高齢者に多い疾病3 5;高齢者に多い疾病4 6;高齢者に多い疾病5 7;高齢者に多い疾病6 8;リハビリテーションの概要</p>			<p>講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義</p>	<p>中角 中角 中角 中角 中角 中角 中角</p>
教科書 1	<p>介護職員初任者研修課程テキスト1、2、3 出版社:日本医療企画</p>						
教科書 2							
参考書 1	<p>人体の構造と機能および疾病 著者:社会福祉士養成講座編集委員会 出版社:中央法規 ISBN:978-4-8058-5100-5</p>						
参考書 2							

授業科目名	生活支援技術 I			履修期	2019年度 秋学期		
担当者	橋本 彩子				NO.	HS-SW-2-505	
配当学科	社会福祉			年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習
テーマと到達目標	<p>テーマ:介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の人を介護する時の判断の基準となる原則を理解する。また、介護サービス提供の基礎を理解し、事例を通して、生活支援技術を提供する過程を作成する。</p> <p>到達目標:</p> <p>①認知症の中核症状・周辺症状について理解し、認知症の利用者の心理を理解する。 ②介護する家族の心情を察し、具体的な支援技術を習得する。 ③いくつかの事例を通して、利用者・家族のおかれている状況をアセスメントし、社会資源等を活用し、利用者の望んでいる生活を継続できるような支援技術を習得する</p>						
概要	<p>①認知症の利用者の心理・行動の実際を示す等により、実感できるように工夫し、介護において認知症を理解することの必要性に気づく。複数の具体的なケースを視聴覚等を利用しながら示し、認知症の利用者の介護について原則を理解する。同様に介護する家族への支援の在り方も考察する。 ②介護過程の目的・意識・展開・介護過程とチームアプローチを理解する。 ③総合生活支援技術演習(事例の展開)で、生活の各場面での利用者・家族の状況をアセスメントし、利用者の望んでいる社会資源と結びつけ、支援過程を作成していく技術を習得する。</p> <p>※実施経験のある教員による授業科目 この科目は、介護施設での実務経験のある教員により、要介護者への介護の現状や課題、またそれらの課題を解決するために必要とされる知識や能力について講義し、学生の理解を深める。</p>						
評価方法	<p>この科目では、様々なかたちの認知症の高齢者の理解をおこなうことを目的の1つとしている。 視聴覚教材を用いて理解を深め、積極的な参加態度を求める。事例を通して、自らアセスメントし、支援過程を作成していく演習((80%)、また知識や習得程度を確認するための小テスト(20%)で評価する。授業中の演習への参加態度を重視していく。なお随時、視聴覚教材の感想、演習プロセスを提出し、全員で共有し、フィードバックしていく。</p>						
履修条件・注意事項	<p>①介護従事者としての資格取得に意欲的であること。 ②随時、資料を配布するのでファインディングしていくこと。授業では、資料にポイントを書き込み、自分なりにまとめていく参加型とするため、それに基づき復習、次回の予習(情報収集)をおこなっていく。</p>						
自己学習	<p>随時、講義の疑問点・感想をリフレクションシートにまとめ、全員で共有する。また、指示された次回の範囲を、テキストに目を通し、問題意識を持ち(予習)臨む。予習・復習にはそれぞれ2時間程度を要する。</p>						
オフィスワ-	<p>原則として、講義終了後とさせていただきますが、可能な限り対応させていただきます。</p>						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			<p>1.認知症を取り巻く状況①(中核症状) 2.認知症を取り巻く状況②(周辺症状) 3.医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理①(アルツハイマー型認知症) 4.医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理②(脳血管性認知症) 5.認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 6.家族への支援 7.8.総合生活支援技術演習「こころとからだ」の力が発揮できない要因を分析し、支援技術の分析・演習を行う。事例1)Yさん・80歳・女性・要介護4(老健入所中、在宅を可能にする援助) 9.10.事例2)Oさん・88歳・女性・要介護2(グループホーム入所中、「共に行う」視点) 11.12.事例3)Aさん・81歳・女性・要介護1(独居、軽度認知症、施設サービス利用法) 13.14.事例4)Kさん・88歳・女性・要介護5(特別養護老人ホーム入居中、寝たきり) 15.振り返り・今後の課題</p>	<p>講義 講義 講義 講義 講義 演習 演習 演習 演習 演習</p>	<p>橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本</p>		
教科書 1	<p>介護職員初任者研修課程テキスト(第2・3巻) 出版社:日本医療企画</p>						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	生活支援技術Ⅱ			履修期	2019年度 秋学期		
担当者	尾崎 紀之					NO.	HS-SW-2-506
配当学科	社会福祉			年次	2		
必修・選択	選択	単位数	5	時間数	75	授業形態	講義
テーマと到達目標	介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。						
概要	これまで約11年間特別養護老人ホームにおいて介護福祉士として利用者の介護にあたり、ケアマネージャー、管理職として介護に必要な知識および技術ならびに価値の修得に努めたきた。その経験を活かし、講義の中では、単にテキストに記載されている内容ばかりではなく、実務経験にもとづく理論や技術を提供し、講義・演習を通し、介護に必要な知識・技術・態度を学び、学生の理解を深めるものとする。						
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな高齢者の生活のイメージができ、要介護度や健康状態の変化に沿った基本的な介護技術の原則を(方法・留意点・その根拠等)理解でき、介助することができる。 講義、演習時の積極的な参加、ルールを守り安全に演習することができる。(80%) 受講姿勢 (20%) 						
履修条件・注意事項	ノートを作成し、重要な項目等、必ず書き写すこと。						
自己学習	予習として各授業計画に記載されている部分について事前に教科書を読む等の学習を行い、理解できない点をまとめて授業を受けること。						
オフィスワ-	授業終了後、教室にて。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			1.生活と家事 2.快適な居住環境整備と介護 3.整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 4.介護技術演習(ベッドメイキング) 5.移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 6.介護技術演習(移動・移乗) 7.食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 8.介護技術演習(食事) 9.入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 10.介護技術演習(入浴・清拭) 11.排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 12.介護技術演習(排泄) 13.睡眠に関したところとからだのしくみと自立に向けた介護 14.死にゆく人に関したところとからだのしくみと自立に向けた介護 15.死にゆく人に関したところとからだのしくみと自立に向けた介護 16.試験	講義 講義 講義 演習 講義 演習 講義 演習 講義 演習 講義 演習 講義 講義 講義 試験	尾崎 尾崎 尾崎 尾崎 尾崎 尾崎 尾崎 尾崎 尾崎 尾崎 尾崎 尾崎 尾崎 尾崎 尾崎 尾崎		
教科書 1							
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							